

ふるさとを想い、自ら学び続ける子どもをめざして

～「地域に根ざした学習対象との出会い」と

「連続的な思考」を大切にしたい総合的な学習の時間を通して～

郡山市立湖南小学校 教諭 吉田 明史

1 研究の趣旨

今日、学校教育において特に重点を置かれていることは「生きる力」の育成である。そのために、子どもにとって最も身近な「ふるさと」を学習対象とした総合的な学習の時間を充実させることにした。この具現化に向け、総合的な学習の時間の有効性を生かし、「ふるさと」に対して多角的に迫らせながら主体的な探究活動を中心とした学びを続けさせていくことにした。そこで、「ふるさと」に誇りをもち愛着が深まることを期待し、「生きる力」を育むことができるよう、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

地域に根ざした学習対象との関わりと、共に学ぶ仲間との連続的な思考を大切にしたい総合的な学習の時間を進めていくことで、ふるさとを想い自ら学び続ける子どもの育成を図ることができるであろう。

2 研究の概要

(1) 研究内容

「生きる力」の育成に向け、次の2つの視点から、子どもの主体的な探究活動の充実を図った総合的な学習の時間を追究していく。

視点①「地域に根ざした学習対象との出会い」

視点②「連続的な思考」による学び

(2) 研究方法

第4学年では主に水環境の視点、第5学年では特産物の視点、第6学年では人物の視点から、3年間にわたり、ふるさと湖南を学習対象とした、子どもの主体的な探究活動を進めていけるように、研究の充実を図る。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① ふるさと湖南に根ざした「人」「もの」「こと」「場」それぞれの学習対象と直接的に関わらせてきたことで、子どもたちは自分の目でふるさとを見つめ、自ら課題意識をもった主体的な探究活動を進めることができ、「生きる力」の育成につながった。

② 学習対象と関わる中で生じた子どもの疑問や気付きを取り上げ、全体に広げたり他の子どもの思考とつなげたりするなど、思考を連続させてきたことで、児童の思考の流れに沿って課題を発展させながら学習を展開していくことができた。

(2) 今後の課題

① ふるさと湖南への想いを根底に、さらに、「福祉」や「健康」などの別の角度や、湖南町だけでなく郡山市、さらには福島県へと視野を広げさせていき、「ふるさと」への郷土愛に迫らせていきたい。また、他領域や他教科と関連させ横断的に学習を展開するなど、学習対象により多角的に迫っていくことに重点を置き、知の総合化を図っていきたい。